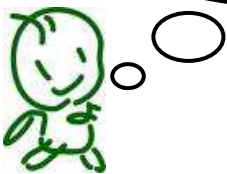


ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Vol.35 Summer 2016

海上の森の湿地で見られる
代表的な植物です。花は、シラサギが
羽を広げたように見え、今にも羽ばたき
そうです。花期は8月です。



サギソウ

トピックス

・海上の森はいま

10年目を迎える「あいち海上の森大学」！

・この人 「ホテルへの思い」

NPO 法人海上の森の会会員 山口ホテルの会会長 出口 なほ子氏

山歩きのシーズンを楽しむための注意点

清々しく澄んだ青空に、彩り鮮やかな秋の訪れを待ち遠しく思っている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、9月は秋雨前線や台風の影響により降水量が多くなるため、出かける前に天候をチェックし、大雨や荒れた天気には注意が必要です。また、残暑が厳しいので熱中症に対しても気が抜けません！10月頃からは天気が安定し、秋本番、歩きやすい季節となります。



特集 海上の森はいま

10年目を迎える「あいち海上の森大学」

あいち海上の森センターオープンの翌年から毎年開講されてきた「あいち海上の森大学」が、今年度で10年目を迎えます。より実践的な内容や、若者の参加を求める声に応え、本年度は大幅に内容をリニューアルして開講します。

本年度の大学は3つの講座が中心となっており、まず初めは、環境教育コース「森の保育者養成講座」を5月から6月にかけて開講しました。子どもたちが森の中で自然とふれあい、豊かな心を育てるプログラムを「森のようちえん」と言いますが、この講座では「森のようちえん」の先生となる人材を育成することを目的としました。

講座の前半は実際に「森のようちえん」を開催しながら学ぶ実習形式で、公募した親子の協力のもと、子どもとのコミュニケーションの取り方やプログラムの進め方などを体感してもらいました。後半は、幼児教育や「森のようちえん」の立ち上げ、運営に関するノウハウを講義で学んでいただき、受講生自身が「森のようちえん」を開催する際のイメージを固めるワークショップを行いました。



現役の保育士、幼稚園教諭から大学生まで、様々な職業・年齢の方が受講されましたが、皆さん、とても熱意を持って、そして楽しそうに講義を受けている様子が印象的でした。

今後は、森林ボランティア等に関心がある女性を対象とした森林再生コースを9月に、里山暮らしに関心がある方を対象とした里山文化コースを秋頃に開講する予定ですので、ぜひお楽しみに！

森のなかま

マムシ



マムシは海上の森で最も危険な生き物です。体長は約40cm。へびの中では小柄です。褐色系の地に丸い銭型斑点といわれる独特の紋様があります。一般には田畑のような開けた所の草むらにいますといわれますが、物見山の山頂でも、センターの駐車場でも見かけることがあります。隠れる草むらと餌があれば、何処にでもいます。

さて、マムシに咬まれたら素人にできる手当はありません。速やかに医療機関で手当てを受けましょう。咬まれた時の注意点は、まず何に咬まれたかを確認すること。マムシに咬まれると2つの歯の跡が残り、激しい痛みと腫れが生じます。ただし、毒がまわるのは遅く、あわてずに何もせず医療機関へ行くことが最善です。強く縛ったり、毒を抜こうと咬まれた処を切ったりすることは、誤った処置です。海上の森には、いろいろな生き物がいます。注意して散策を楽しんでください。

SKI64



←【マムシの特徴！】
表皮に見られる
銭型斑点。

この人「ホタルへの思い」

山口ホタルの会 会長 出口 なほ子さん

ホタルに関わってどれ位ですか？
とよく聞かれます。「うむ？」長いですね・・・
とごまかす、確かに長い。

万博前、水路が道の拡幅で無くなってしまふということが判明。それからこれは大変ということ
でまっしぐら、今に続くということ。

環境水田（ホタルの一時避難所）を近くに造って
もらい2年間守り、海上の森センターの裏にビオ
トープを造って棲息調査を続け、環境保護を続け
てきております。

私の一番のお宝は、ホタルの「おす、めす」を
捕まえて幼虫をたくさん育て放流をして飛ばす
という、どこでも一般的にされているというこ
とを一切していないということです。ホタルの棲息
環境を整えて、水路整備したり草刈りをしたりし
てホタルを見守っております。ですから、その年
その年たくさん飛んでくれたり少なかったり、毎
年一喜一憂しております。

今晚も「モニタリング 1000」の里地調査で海
上の里へホタル調査に行きます。今年はまだ終息
気味です。

やはり今年も「クロマドボタル」に会うことが
出来ました。今年「源氏ボタル」が多めで「平
家ボタル」が少なめです。

H28.7.5

プロフィール

NPO 法人 海上の森の会 理事

山口ホタルの会 会長

出口 なほ子



瀬戸市在住。水辺の環境を保全することから
ホタルの保護活動を実施している。また、海上
の森の会「里山文化」グループリーダーとして、
里の年中行事の復活や里山サテライトの管理な
どを行っている。

センター職員随想リレー かたりべのひと言

<つづけて、つなげて、ひろげよう>

6月18日に、「あいち海上の森大学 森の保
育者養成講座」を無事終了することができまし
た。受講生15名のうち、全日程出席あるいは1
日のみ欠席の方が14名であり、受講生の意欲が
ひしひしと感じられた講座となりました。

今後は、受講生が取得された様々な技術・知識
を保育者としての活動に活かしていただければ
と思いますが、早速年内に海上の森で、「森の読
み聞かせ」を実践しようとして提案されたことに、大
変嬉しい思いがいたしました。

また、受講生同士の交流を今後も続けていく予
定とのことで、今後様々な関係者との交流につな
がればとも期待しています。

「海上の森保全活用計画 2025」のコンセプト
である、「つづける・つなげる・ひろげる」が、
新しい大学の取組から実現できそうであり、今後
の受講生たちの活躍を大いに期待し、センターも
全面的にサポートしていきたいと考えています。

(T.K)

海上の森で山歩き 約3時間のコース紹介

愛知環状鉄道（愛環）の山口駅を下車。屋戸橋へ向かう（徒歩で約30分）。屋戸橋をへて四つ沢（20分）、四つ沢からは山歩きとなる。ほぼ登り道。三角点まで20分の行程となる。三角点で眺望を楽しむ。すく下に愛環が見える。北西側に矢田川低地に広がる瀬戸市が見え、東側は猿投山へと続く丘陵地の山並みが見える。

さて、三角点から屋戸の湿地まで約20分の下り道。この頃、屋戸の湿地では体長2cm程のハッチョウトンボの他、湿地に生育する小さな植物が観察できる。屋戸の湿地から森の交差点まで約20分の登り道。森の交差点から五輪塔まで約20分、平坦な道のりである。五輪塔からは遠くに小牧山が見える。五輪塔からセンターまでは下り道で約20分。センターで海上の森を改めて見る。大きな地図で今日のコースを辿る。センターから山口駅までは水田が広がり、すがすがしい（30分）。約3時間の山歩きだ。SKI64



平成28年度開催予定 海上の森プログラム

○調査学習会「初秋の海上の森（花・虫・鳥）」

実施日時：9月25日（日） 9：30～12：30
 定員：20名 申し込み締切：9月11日（日）
 対象：小学生以上 ※小学生は保護者同伴

お申し込み方法など詳細につきましては、あいち海上の森センターホームページ (<http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>) またはセンターおよび関連施設にて配布される資料をご確認ください。

人と自然の共生国際フォーラム

The 10th International Forum on Interrelationship between Nature and Human Beings

10月29日（土）と10月30日（日）の二日間にわたり、「人と自然の共生国際フォーラム」を開催します。

第10回となる今回は、これまでのフォーラムを総括し、「これから」に向けた提言を行うとともに、愛知万博記念の森である“海上の森”における「これから」の具体化、実践について考えていきます。

特別講演の講師に、東洋文化研究家で、NPO 法人籠庵トラスト 理事長であるアレックス・カー氏をお招きし、森林・里山の保全活用や、人と自然の関わりを次世代につなぐ取組について講演していただくほか、地球未来子ども塾の活動報告やパネルディスカッション、市民の EXPO 等を開催し、参加者の皆さまと共に、人と自然の共生について考えていきます。

皆さまの参加をお待ちしております。

編集後記

気が付くと日の暮れが早まり、季節の移り変わりを感じます。終わりのゆく夏を名残惜しく思いながら、ヒグラシの声を聞いています。もうすぐ実りの季節。食欲の秋です♪

編集・発行 あいち海上の森センター（ムーアカデミー）

発行日 平成28年8月31日
 〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1
 TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841
 E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp
 URL: <http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>



ホームページQRコード